令和７年度　　自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	7	学校名	岐阜総合学園高等学校

社会的役割等 (ｽｸｰﾙ･ﾐｯｼｮﾝ)		「夢を見つけ、夢を育て、夢を叶える」高校として 総合学科の特長を活かした幅広い選択科目とキャリア教育を通して 主体的に生きる力と協働的に学ぶ力を身に付け、地域や国際社会に貢献できる人材の育成を目指す学校
学校教育目標 （教育方針）		自ら学び続ける意欲と態度を養い、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間を育成する。 １　主体性を重んじ個性を伸ばす総合学科の特色を生かし、自らの可能性を引き出す力を育てる。 ２　自己を正しく理解し、自己実現を図るための、人生設計力を育てる。 ３　実践的活動を通して、自主性・創造性を養い、健康な心身を育てる。 ４　社会の一員としての役割と責任を自覚し、他を思いやる友愛の心を伸ばし、たくましく生きる力を育てる。
３つの方針 (ｽｸｰﾙ･ﾎﾟﾘｼｰ)	どんな生徒を育てたいか 【ＧＰ】	・主体性をもって課題解決に取り組み、自らの可能性を引き出す生徒 ・自己を正しく理解し、自己実現を図るための人生設計力を身に付けた生徒 ・実践活動を通し、自主性と創造性、健康な心身を兼ね備えた生徒 ・他人を思いやる友愛の心をもち、社会で生きる力を持った生徒
	生徒をどう育てるか 【ＣＰ】	・　生徒一人一人の特性に応じた学力の伸長を図り、深い学びを実現するため、カリキュラム編成と、ＩＣＴなどを活用した創意工夫の授業展開 ・総合学科における専門教育とキャリア教育を通して「主体性・思考力・協働性」を養う授業の実施 ・「凜として美しく」をモットーに、学校生活の充実を図ると同時に、個々の進路実現に合わせた教育活動の実施
	どんな生徒を待っているか 【ＡＰ】	・向上心を持ち、どのようなことに対しても主体的に学ぶ姿勢がある生徒 ・自ら様々な課題を発見・分析でき、適切な計画を立ててその課題に取り組める生徒 ・他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる生徒 ・他者と協力しながら、社会に貢献しようとする思いがある生徒
学校の抱える課題		県内最大規模の総合学科単独校としての在り方を確立する ①各系列の特徴を生かした魅力ある教育課程の編成 ②キャリア教育を軸とした幅広い生徒の進路希望を叶える指導体制の確立 ③総合学科の特徴を理解し、強みを生かした教育を提供するための職員研修の充実
教育指導の重点	領域・分野	今　年　度　の　具　体　的　な　重　点　目　標
	学校経営	・総合学科の強みを生かした特色ある教育活動を実践するため、教育課程や指導内容、教員の指導体制について常に見直しを図る。 ・実践的で幅広い教職員の研修を計画的に実施し指導力の向上を図るとともに、管理職を中心に働きやすい職場環境づくりを推進する。
	学習指導	・毎日の授業を大切にし、ICTを効果的に活用し、生徒の意欲的な学習態度を育成し、主体的で深い学びを実現する。 ・総合学科の特色を生かし、産業教育・キャリア教育・文化芸術スポーツ教育等に係る幅広い授業を展開し、社会で活きる確かな学力と実践力を育成する。
	進路指導	・自己の能力や適性を理解し、ライフプランを作成し、自己の目標の実現と自らの成長のために主体的に学ぶ力を育成する。 ・探究活動や実践を通じて課題を発見・分析し、情報や知識を適切に収集・活用しながら、他者と協働し社会参画する力を育成する。
	生徒指導	・基本的生活習慣全般の指導を行い、美しい身なり・言動・姿勢で学校生活を送らせる。 ・規範意識ならびに自他の生命を大切にする心、いじめをしない・させない心を育成する。

年　度　目　標				年　度　末　評　価（自　己　評　価）			
領域 分野	３つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合評価 A.B.C.D
学校経営	①総合学科の特色を生かした学校運営や教育活動の実践のために教育課程や日課、広報活動、教員の指導体制の改善を継続し、地域住民や保護者など地域と一体となって魅力ある学校づくりを推進する。	施策Ⅳ-20	・生徒および保護者対象アンケートの結果 ・学校運営協議会などでの地域住民や保護者のご意見	・総合学科の特色を生かした学校運営を行なうとともに、地元企業や保護者、地域住民と一体となり魅力ある学校づくりに努めている。 ・広報活動については、インスタグラムの活用や報道機関に取り上げていただく等、広く本校の活動を公表することができた。 ・保護者対象アンケートにおいて、「学校開放や見学会等の学校に参加する機会を提供している」について、肯定的な回答は７３％（前年比＋２３％）であり、昨年度より上昇した。 ・各系列において、さまざまな地域の企業や公共団体、学校と連携して実習や講義を実施した。また各部活動が多くの地域イベントに参加した。	A	・インスタグラムについては、昨年度に引き続きフォロワーも増加しており、多くの方へ本校の魅力をＰＲするのに適している。今後も生徒の取り組みについて、継続的に発信していきたい。 ・今年度、久々に学校開放や見学会を実施した。多くの保護者様にご参加いただき、様々なご意見・ご賛同をいただくことができた。 ・総合学科としての特色を生かした数多くの地域と連携した実践的・協働的な学習活動により、生徒の課題解決力を育むとともに、地域に貢献することができた。今後もこうした取り組みを推進していく。	
	②特別支援教育委員会や研修会を開催し、専門機関と連携しつつ、多様な指導・支援を必要とする生徒に対する支援や学習体制の整備を恒常的に実施する。	施策Ⅳ-21	・生徒および保護者対象アンケートの結果 ・会議・研修会ならびに支援の実施状況	・今年度は特別支援計画を必要とする生徒が増加したため、生徒・保護者の意向を聞き取り、その都度、支援方法を特別支援教育委員会にて職員間で情報共有し、体制を整えた。 ・教室へ入れない生徒に対し、「ほっとプレイス」で担当者が個別に対応を行なった。 ・特別支援教育支援員、通級指導、スクール相談員、SC、SSWをはじめ、その他関係機関と連携して支援や学習体制の整備に努めた。 ・保護者対象のアンケートにおいて、「学校は教育相談体制の充実など、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている。」について、肯定的な回答は７６％（否定的な回答は５％、不明が１８％）であり、良好な結果であったと言える。		・今年度、特別支援計画の必要な生徒が増加したが、各担当者の努力で生徒に寄り添った支援ができていたと考える。年々、特別な支援を必要とする生徒は増加しており、手厚い指導を継続するためにも特別支援教育支援員の増員が望まれる。 ・各生徒の問題に応じて、外部機関とその都度、適切に連携して対応することができた。 ・個々の生徒に応じた、きめ細かな教育相談ができていたと考えるが、一部の保護者・生徒への周知が十分ではないので、インスタグラムやすぐーるにて有効な発信を行う必要がある。	
	③総合企画部を中心に、教員のニーズや教育の今日的課題に応じた実践的で幅広い研修を計画的に実施し、教職員の資質・指導力の向上に努める。	施策Ⅳ-26	・研修会の実施状況および教員のアンケート結果 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・成果を上げている他県の総合学科への見学や講師をお招きして研修を実施するなど、教職員の資質・指導力の向上に努めた。 ・総合学科としての特色を生かした数多くの地域と連携した実践的・協働的な学習活動により生徒の課題解決力を育むことができた。		・生徒対象アンケート「本校は、生徒が興味関心や進路などを踏まえて教科・科目を選択できるように工夫している」について、肯定的な回答９２％と高評価であった。 ・総合学科の在り方として、国公立大学への進学を含め、更なる多様な進路への対応ができるよう、学校全体で取り組めるような研修を更に行う。	
	④外部人材を活用し、校務のＤＸ化を推進し多方面で効率的にICTを活用することで、教職員の多忙化の解消を目指す。	施策Ⅳ-27	・教職員の勤務状況 ・校務ＤＸ化の状況 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・Teamsを用いて生徒の出欠状況確認やオンライン職員会議で使用しており効率的な運用ができている。 ・生徒への課題や連絡をmanabaを通して行う等、学習の指示を行なうことができた。 ・生徒の選択科目について、昨年度、AccessからExcelに移行されたが、その運用を円滑に行えた。		・保護者、生徒対象のアンケートにおいて、「ICT機器を活用した学習支援を積極的に実施している」について、肯定的な回答は保護者、生徒共に70％以下であった。この点から授業での更なる活用が望まれるが、通信環境が良好でないことも大きな要因であり、改善が望まれる。	
	①生徒個々に応じた主体的・対話的・協働的・実践的な学びを充実し、社会で活きる学力を育成する。	施策Ⅱ-8	・授業アンケートの結果 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・１０月に生徒による授業反省と授業評価を実施。 ・産業社会と人間や総合的な探究の時間の中で、グループワークや発表の機会を作ったことで主体的で対話的な学びを実現した。		・来年度に向け授業反省と授業評価の方法を検討し、生徒の学びをより充実させるため、全ての授業でアンケートができるように計画的に取り組んでいく。 ・地域探究では、地域との関りをもつようにフィールドワーク的な活動を入れることで、協働的・実践的な学びとなり、地域社会の一員として課題をもち、考える力がついた。次年度は課題の明確化と多様な探究方法での課題解決を目指したい。	

学習指導	②タブレット・電子黒板・書画カメラ・学習支援ソフトを積極的に活用し、ICTを利活用できる力を育成するとともに、生徒の理解の質を高める。	施策Ⅱ-9	・授業アンケートの結果 ・ICT活用状況調査の結果 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・実習系以外のほとんどの授業においてタブレットやプロジェクタの積極的な活用が見られる。 ・生徒対象アンケート「ICT機器を有効に活用した授業が行なわれている」について、肯定的な回答６９％	B	・ICTの活用として、生徒のタブレット活用度をいかにして上げるかが早急な課題である。タブレットを活用した学習支援ソフトへの取り組みを充実させていきたい。 ・学習支援ソフトの活用の向上に向けて、授業において活用できるソフトやアプリについて、研修会・勉強会を段階的に実施する。	B
	③各系列ごとに職場体験活動や職業講話、外部施設設備の活用を通じ、地域資源を生かした産業教育を推進する。	施策Ⅱ-14	・職場体験活動・職業講話などの実施状況ならびに生徒の事後アンケート ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・系列の実態に応じてインターンシップを実施できた。また、キャリア教育として、地域の外部講師を依頼し、職業理解の講話等を充実させた。		・昨年度よりも地域との連携や系列ごとのインターンシップが増加し、活発な教育活動が展開できた。 ・１年次の職業理解の学びが弱いので、来年度は１年次の職業体験を強化する予定。	
	④総合学科の特色を生かし、文化芸術やスポーツに触れ、親しみ、感性を育む講座や行事を充実させる。	施策Ⅰ-5	・授業や行事の実施状況 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・各系列や部活動の成果を活かし、スポーツ面も文化面も生徒が主体となって創り上げるイベントを実施している。		・イベントの内容や実施場所等、検討しながら生徒が成長できる行事、岐阜総合学園高校にしかできない行事を考えていけるとよい。 ・総合学科としての特色を生かしきるためにには、自然科学、工業系、商業系、芸術文化系、生活福祉系等が各特色を活かして協働して作り上げて行くことを目指したい。	
進路指導	①大学・企業等との連携や協働を推進し、実践的・体験的な学習の充実を図り、確かな学力と実践力を育成し、個々が主体的に進路目標を実現するための支援を行う。	施策Ⅱ-8	・進学・就職の状況 ・外部模試などの結果 ・実習授業・職場体験などの事後アンケート	・年末の時点で、208名が進学、53名が就職である。 ・外部模試は希望者のみで、一般選抜を視野に勉強に力を入れている生徒が、毎回１０名前後が受験している。 ・ガイダンスや体験型の授業など、大学や企業と連携した進路イベントの実施はできた。 ・進路職員、３年次担任による、大学の入試説明会案内を充実させ、積極的に参加する教員が増えた。	A	・国公立は、愛知県立大学１名、岐阜市立女子短期大学２名、岐阜市立看護専門学校１名などに合格した。 ・私立は立命館大、愛知大、中京大、名城大、愛知学院大、拓殖大、京都橘大などに合格した。 ・実施した活動が学力や実践力には結びついていないため、どのように結び付けていくかが課題である。	
	②生徒が自己の適性や可能性を理解し、働くことの意義や、学習と将来とのつながりを実感できるよう、地域や産業界と緊密な連携を図り、キャリア教育の充実を推進する。	施策Ⅱ-13	・キャリア教育の実施状況および生徒の感想 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・例年より多くの職業理解の時間を設定することができた。県とのコラボなど、新しい繋がりをもつことができた。 ・保護者対象アンケートにおいて、「進路説明会を実施するなど、生徒・保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」について、肯定的な回答は８５％、生徒については、「本校には、進路講演会等により、進路や将来について考える機会がある。」について、肯定的な回答が９６％であり、全ての項目についても、肯定的な回答を保護者からは８０％以上、生徒からは９０％以上いただいている。		・生徒の進路希望に沿ったガイダンスやキャリア教育の計画ができるよう、連携をすすめるために、分掌で積極的に動いていきたい。 ・就職は５０数名の希望者に求人が３０００件以上という状況であるが、人気のある会社については難関となるので、高校の３年間で、基礎学力、コミュニケション力、人間力を更に高める必要がある。 ・保護者対象進路説明会は、非常に多くの参加者が集まった。来年度は、より保護者の理解が深まるよう、実施時期や方法を検討したい。	
	③「産業社会と人間」および「総合的な探究の時間」の内容を編成し直し探究的な学びを深化させ、互いに認め合う活動を通じて自己表現力の向上を図り、他者と協働して社会参画する力を育む。	施策Ⅰ-1	・探究活動の事後アンケートや感想・自己評価 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・生徒の実態や進路希望に合わせた計画を再考することができた。 ・自分たちの成果を発表する機会も増やし、チームで協働する場を増やしたことで、自己表現力、他者と協働する力を育むことができた。		・２年次の地域探究と３年次の系列探究の確立に取り組んだ。次年度も重点課題である。総合型選抜等、大学入試などの際に、生徒の強みとなるような探究活動を展開していきたい。	
	④各系列ごとに地域の会社や施設、専門家等と連携した学習を実践し、「ふるさと岐阜」について学び、地域の課題解決のための探究活動を行い、将来地域の担い手として活躍できる人材を育成する。	施策Ⅰ-4	・地域に関する探究活動の実践内容ならびに発表内容・自己評価・他者評価 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・２年次の探究活動の中心を地域探究としたことにより、この項目は達成に向かっている。 ・地元企業、県の機関と取り組むことで、岐阜の現状や特色について生徒がしっかりと把握できた。		・地域の課題を明確にすることは不十分であったため、次年度は課題設定と解決策の考案について、より具体化できるようにし、地域で活躍できる人材として育つような学びを構築したい。	
生徒指導	①生活指導旬間を設け挨拶や生活規範・マナー指導について生徒主体で啓発活動を行い、自己指導能力およびコミュニケーション能力を育成する。	施策Ⅰ-1	・生徒および保護者対象アンケートの結果 ・生徒会の活動状況 ・身だしなみ指導の状況	・長期休暇明けに、職員・有志生徒・ＭＳリーダーズ等で、生活指導週間として校門付近において挨拶・身だしなみ・交通マナー等の啓発活動、指導を実施した。 ・年間４回、身だしなみ指導「全校一斉点検および身だしなみ強化月間」を実施し、”凛として美しく”をモットーに指導を行った。 ・生徒会を中心として、スタイリングマニュアルの改訂を行い、正式施行は、来年度４月より行う予定。	B	・登校時に、生徒自ら大きな挨拶・声かけをすることにより活気のある雰囲気づくりができている。 ・身だしなみ指導については、多くの生徒は正しく行動できているが、守れない一部の生徒には、年次と連携し粘り強く指導していきたい。 ・スタイリングマニュアルの改訂について、生徒会、職員と意見交換しながら試行に結びつけることができた。	
	②交通事故を防止するため、交通安全強化旬間・交通安全の日を設け、交通安全委員・MSリーダーズ・職員による指導を継続的に実施し、子どもの安全・安心を守る安全教育の充実を図る。	施策Ⅲ-19	・MSリーダーズの活動状況 ・交通事故発生件数 ・交通マナー違反件数	・年間４回、交通安全強化週間を交通安全委員会を中心に交通マナーの啓発活動を中心に実施した。（PTA合同） ・ヘルメット着用についてのアンケートを行うなど、交通安全委員会を中心にヘルメット着用の啓発を実施した。17名の生徒が今年度より着用してくれた。		・昨年に比べ、自転車での事故が増加傾向にあり、交通ルールやマナーの啓発と併せ、常日頃、時間に余裕を持った行動を促す指導を行っていきたい。 ・ヘルメットの着用率は高いとはいえない。来年度からは、学校への自転車乗り入れ時の着用について継続して指導していきたい。	
	③携帯電話の使用規定を定め、生徒会と連携しながら情報モラルに関する指導を継続的に実施し、ICTを正しく効果的に活用できる力を育成する。	施策Ⅱ-9	・携帯電話不正使用件数 ・生徒アンケート結果	・KDDIに依頼し、情報モラル講話を実施。 ・スマートフォンの不正使用の指導27件。 ・携帯電話の不正使用がここ数年増加傾向にあるが、不適切使用は減少傾向にある。		・ＳＮＳが多様化し、誹謗中傷など指導すべき内容は多岐にわたる。年次と連携し、情報モラル違反について今後も指導と啓発を行なっていきたい。	
	④懇談や迷惑調査などのアンケート、全職員への研修を実施し、専門機関と連携しつつ、生徒指導・教育相談活動を推進し、いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応を徹底する。	施策Ⅰ-3	・いじめ・いたずら等問題行動・迷惑行動の状況 ・遅刻者数・欠席者数の状況 ・教育相談・カウンセリングの実施状況	・いじめの認知件数については、昨年度と比較して増加したが、各案件に対して、関係職員の組織的で適切な対応により沈静化した。 ・保護者、生徒対象のアンケートにおいて、「いじめや差別を許さず、厳格に対応している」について、肯定的な回答は、生徒８３％に対して、保護者５９％であり、保護者への周知が必要である。		・いじめ案件において、概ね組織対応ができていた。全職員を対象とした研修を行い、よりよい対応を目指したい。 ・HP、インスタグラム、すぐーる等の活用により、いじめについて学校の方針や対応についてしっかりと周知していきたい。	

来年度に向けての改善方策等　　実施日：令和８年１月２８日

・ICTの活用として、生徒のタブレット活用度の向上に対して、教員間のICT研修の更なる充実（授業で活用できるソフトやアプリに関する研修会・勉強会の実施）。
・保護者による授業参観、保護者就職説明会等、学校の様子を効果的に発信していく。
・進路指導において、就職・進学共に、高校の３年間で、基礎学力、コミュニケーション力、人間力を更に高める方策を考えていく（学校全体でのテーマである）。
・地域の課題を明確にすることが必要であり、次年度は課題設定と解決策の考案について、より具体化できるようにし、地域で活躍できる人材として育つような学びの構築を目指したい。
・本校のいじめ対応について、適切に対応されているが、生徒と保護者の間に意識の乖離があり、対応や方針について更なる説明が必要。いじめの発生時、生徒と保護者で理解・認識が異なると、保護者対応に苦慮することが増加する。HP、インスタグラム、すぐーるを活用するなど、効果的な情報発信方法を考えていきたい。
・交通事故の増加が顕著であるため、ヘルメット着用率の向上を目指したい。

学校関係者評価　　実施日：令和８年１月２８日

・校長先生の指示のもと、それぞれの分掌の先生が、総合学園らしい活動を目標として、取り組んでいる。
・課題としては、ポートフォリオ形式で自分達の目標を形で残すと、生徒が成績等を振り返り易くてよい。
・生徒の身だしなみや挨拶等の態度が素晴らしいのは生徒指導の成果である。
・地域と関わりを持つフィールドワーク活動が盛んになり、協働性・実践的な力が付く一方で、その分、基礎学力をつけるための時間が確保できるかが課題である。
・対話的な活動が非常に多いのは評価できるが、それが苦手な生徒もいるので、気にかけるべきである。
・全ての学校運営協議委員より今年度の取り組み、その評価に対する承認を得た。総括して、「岐阜総合学園高校として今後も、今のような取り組みを続けてほしい。」との評価を得た。一方、遅刻が増加していることに対して、「生徒が遅刻をしてはいけない！」と意識付けする指導をすべきとの要望があった。